

2021年度

生協10の基本ケアニュース vol.2

ご利用様が自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、日常生活行為そのものをリハビリと捉えた自立支援を行っています。個々のケースに応じて「この利用者にとっての自立支援はどう考えるか」を日々話し合い、その方の想いに添った目標、それを実現するためのケアのあり方を「生協10の基本ケア」を通して共通理解を持つことで、統一したケアを実践しています。

これまでの、取り組みを通して、ご家族様から頂いた声を紹介します。

がん末期の方ですが、お独り暮らしで、在宅生活を継続していくことに様々な問題がありました。

ゆとり〜なでの1カ月間の緊急ショートへの依頼がありました。

食欲が無く、お弁当はほとんど残していました。

転倒を繰り返して大きな怪我が数か所ありました

在宅酸素のため、入浴はシャワーだけでした。

必要な酸素吸入機を付けず、毎日煙草を吸っておられました

利用開始当初は歩くことが出来ず、車椅子を使用しておられました。長時間座っていることができないため、ベッドで過ごされることもありました。

酸素を付けた状態でお風呂に入るのはどう？

満ちるようにやってみよう

目標③ お風呂で湯船につかれるようにしよう

まずは、しっかり食事をして体力をつけましょうね！

目標② 車椅子を使用する前の歩行状態に近づけよう

目標① 怪我の回復と体調管理

1カ月後には自宅に帰れるように、みんなで話し合い目標を設定しました。

週に1回、訪問看護による傷の処置を行い、体調の変化は、訪問看護から主治医に正確な情報を提供できるように、ゆとり〜な看護士と訪問看護の連携を深めました。

1カ月のショート終了後は自宅に戻られました。その後もショートを利用しながら、在宅での生活を続ける予定でしたが、翌月ご自宅で逝去されました。

様々な連携を図りながら、最期まで、ご本人が望まれる生活をサポートすることが出来たことは、職員にとって貴重な経験となりました。

ご家族様の協力により、大好きなうなぎ、大福を食べるなど外出の希望も叶えることができました。

1カ月後

傷は退所日には怪快、治療する箇所もありました。

皆さんと一緒に食事をするのを心配されていましたが、職員の誘いをきっかけに、自らフロアで食事をされるようになり、ほぼ全量食べるようになりました。

栄養摂取により、体力の維持ができ、歩行器や杖歩行ができるようになりました。

酸素を付けて入浴をし、「久しぶりに入った」ととても喜ばれました。

その他にもたくさんの声を頂いています！

- ・利用前は活気がなく、起き上がることも厳しい状態でしたが、かがやきを利用してからは、表情も穏やかになり、足取りも良くなりました。
- ・病院に入院したのがきっかけで寝たきり状態になりましたが、宇奈月までドライブに外出したことを楽しそうに話すのを聞いて、とても嬉しくなりました。
- ・自宅では何もさせない介護になってしまって反省の毎日です。輝ではできる事を発揮させてもらえる介護なので感謝しています。
- ・退院後は歩行器を使用していましたが、今は使用しなくても歩行ができるようになりました。

ご家族様より

末期がんでターミナル病院の手続きもしていましたが、自宅で安らかに永眠できました。緊急ショートで泊まらせていただき、本当にありがとうございました。

